

## 第二十回 (株) USEN 番組審議会 議事録

開催日時：平成 19 年 2 月 16 日 16 : 00～  
開催場所：(株) USEN 山王パークタワー13F  
プレゼンテーションルーム

出席者 委員：小林亜星、有馬祐行、渡辺英夫、山本武司（順不同・敬称略）

放送局側：5 名

## 議事内容

## 1. 会社動向についての報告

## 2. 放送事業についての報告

## 3. 番組課題

- (1) 「ピアノ音楽」番組について
- (2) 他、番組全般について自由討論

## 4. 番組審議

- 以前より本審議会で提案のあった「カクテルピアノ」の内容を汲んだ番組を、本年 4 月の改編時に導入することが決定している。
- 個人リスナーにおいては、それぞれが自分流の聴き方を探る時代になってきており、ピアノ音楽の聴き方も多種多様で、従来のジャンルにとらわれない聴き方をする人が増えていると考えられる。
- 日本の作曲家でソロピアノの曲を書いている人はほとんどいない。ピアノが西洋から入って来た楽器であることが原因の一つだが、日本人の書いた日本的なピアノ曲を集めた番組があれば、需要も高いと考えられる。
- 誰でも聞き覚えがあるようなオーケストラの名曲・交響曲などをピアノで弾いた番組を作ったら、ピアノの良さを伝えるのによいのではないか。
- 音楽教育用としてのピアノ音楽にとどまらず、さらに文化としてのピアノ音楽を築いていくことは、音楽放送における重要な課題である。
- 昭和の名曲をアップライトピアノで素朴に演奏した番組があれば、懐かしさを生み需要があるのではないか。
- ピアノ番組でも、個人リスナー向けには楽曲紹介付きの番組、業務店向けには誰でも知っている曲をサンプルに演奏する番組など、用途に合わせてそれぞれ充実させていくべきである。
- USEN では、楽曲名・アーティスト名を表示可能なチューナーを販売開始したが、演奏者・作家のプロモーションという観点からも、これら表示機能は重要であると考えられる。
- ピアノはその構造上、どんな人が弾いても比較的同じ音が出やすい楽器であり、昔から多くの人が音楽の授業などで親しんできているという点でも、「楽曲」を聴かせるのに適した楽器である。こういった観点から、ピアノは「標準楽器」と言えるのではないか。
- AE-54 PIANO Compilation は、ジャズピアノやクラシックピアノ番組と違い、聞き流しても、じっくり聞いても心地よく、選曲も耳に馴染みある有名なものが中心なので、非常に聞き手の側に立った番組であると言える。
- 個人ユーザーにピアノ音楽の魅力を伝えるには、ステレオ放送の番組をさらに増やすべきではないか。
- ピアノ演奏による童謡番組も需要が高いと考えられる。

- USENでは、様々な場所の雰囲気にあったBGMをコーディネートする「BGMコーディネーター」という社内資格試験制度をスタートするなどの取組みを行っている。